

津軽森林鉄道遺構の足跡

青森ヒバの輸送を目的に、青森貯木場から金木町喜良市貯木場までの延長67kmの路線として明治42（1909）年に完成した我が国初の森林鉄道である。輸入及び国産の蒸気、ガソリン、ディーゼル機関車などが活躍し、津軽半島の沢ごとに支線が伸び、総路線延長283kmが建設された。住民の足として地域の生活にも貢献したが、モーターゼーションの進展により昭和42（1967）年11月に廃止を余儀なくされた。今も残るその遺構からは先人の英知や先進性が偲ばれる。



津軽半島・津軽森林鉄道遺構位置図

1 青森貯木場跡(沖館停車場跡)

青森市沖館



起点の津軽森林鉄道総本山ともいべき青森貯木場（沖館）には、米国製のボードウィンやライマー社製蒸気機関車でヒバを運送。一方、海上からは船を利用して集積した。現在は住宅街に大きく変貌。軌道跡には「津軽森林鉄道碑」が建てられ、当時を偲ぶことができる。

- 青森駅西口より国道280号 1.8km（約4分）
- 問い合わせ先／青森市森林博物館 ☎017-766-7800

2 後潟支線跡(新幹線並行場所)

青森市清水

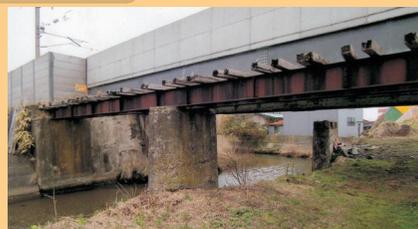


明治43（1910）年度の開通当時、機関車の時速は15～20kmだった。一方、北海道新幹線の営業最高速度は時速260km。北海道新幹線の線路と並行する後潟支線跡は、利用目的の異なる鉄道の今昔を感じることができお勧めスポットだ。

- 青森駅西口より国道280号 約1.9km（約3.2分）
- 南後潟町内看板左(西)の農道に入り1.8km（約2分）
- 問い合わせ先／青森市森林博物館 ☎017-766-7800

3 瀬辺地川鉄橋跡

蓬田村瀬辺地



旧道「玉松海岸」を北上し、瀬辺地川に架かる鉄道は、中央にJR津軽線、その両側に津軽森林鉄道軌道跡がある。海側に残る橋脚や木製の杭は、森林鉄道が敷設された当初の頃のものである。一方、上流側には枕木が残っており、一見の価値がある。また、更に北上すると広瀬川鉄橋や田んぼの中に残る盛土も見ることができる。

- 蓬田村役場から4.1km（約11分）
- 問い合わせ先／蓬田村役場 ☎0174-27-2111

4 蟹田停車場跡

外ヶ浜町蟹田



木材運搬の要所であった蟹田には、停車場や海上輸送のための栈橋などがあった。明治41（1908）年7月24日に蟹田・今泉間が部分開通した津軽森林鉄道は、同年8月3日に開通式が行われ、8時30分、汽笛を鳴らしライマー社製機関車が出発。この機関車は米国から船で運ばれ、蟹田停車場で組み立てられた。当時の様子を想像してほしい。

- 外ヶ浜町役場から1.3km（約3分）
- 問い合わせ先／外ヶ浜町役場 産業観光課 ☎0174-31-1228

5 大川目沢川橋脚跡

外ヶ浜町蟹田

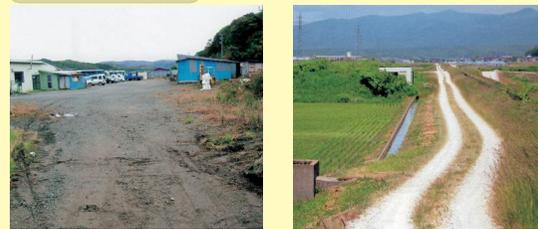


外ヶ浜町から県道12号を中泊町に進み、大平トンネルを過ぎると大川目沢にかかる「やまなみ橋」がある。橋を渡りきった所の小道を徒歩で右に入り、すぐ左に進むと、川に残る立派なコンクリートの橋脚3基と朽ちた木製の橋脚跡を見ることができる。さらに中泊町に進むと、明治41（1908）年8月の開通式場となった小股沢支線に達する。

- 外ヶ浜町役場より11.2km（約16分）
- 問い合わせ先／外ヶ浜町役場 産業観光課 ☎0174-31-1228

6 今泉停車場跡

中泊町今泉



今泉停車場は、西北地域の木材を青森に運搬する中継地として大きな役割を果たした。今でも停車場跡や軌道跡を見ることができる。今泉から蟹田に抜ける途中の中山峠には約454mの「六郎越隧道」が建設された。隧道は崩落により確認することはできないが、蟹田～今別間の橋の脇には木杭や橋脚等の痕跡が数多く現存している。

- 中泊町博物館より10.4km（約14分）
- 問い合わせ先／中泊町博物館 ☎0173-69-1111



太宰治と津軽森林鉄道

作家太宰治は、明治42（1909）年に誕生した。奇しくも日本初の津軽森林鉄道が全線開通した年である。

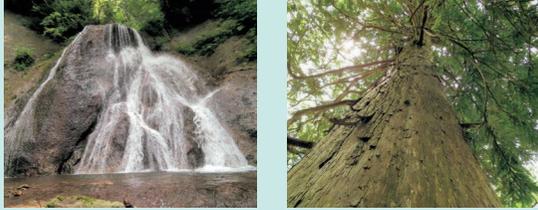
太宰は小説『津軽』の中で、「山は奥羽山脈の支脈の梵珠山脈である。この山脈は、全国有数の扁柏（ひば）の産地である。その古い伝統を誇ってよい津軽の産物は、扁柏である。」と青森ヒバを絶賛している。そのヒバを運搬したのが津軽森林鉄道である。

太宰はある日、兄夫婦たちと津軽森林鉄道喜良市川支線鹿の子線を歩いて、鹿の子川溜池や滝へピクニックに出かけた様子を、『津軽』に「金木川に沿って森林鉄道の軌道をしてく歩いた。溜池のほとりの大きな石碑には、兄の名前も彫り込まれてゐた。」と書いている。鳥のさえずりや滝の音を聞き、名所鹿の子滝で弁当を広げ、楽しくビールを飲んだようだ。その溜池の高神橋（現県道2号）の傍に、当時のコンクリートの橋脚跡が残っており、当時を彷彿とさせる。

小説『津軽』「二 蟹田」「四 津軽平野」より

7 中里支線跡(不動の滝)

中泊町中里



太宰治の小説『津軽』にも登場する不動の滝は、太宰が幼少時代に親戚に案内されて訪れた場所である。この時、太宰が歩いた道には、大正8(1919)年、中里貯木場手前で本線から分岐して中里支線が敷設された。不動の滝は、鎌倉時代から続く山伏荒行の場であり、パワースポットとしても人気。誰でも気軽に行ける平坦なコースだ。

- 中泊町博物館より5.5km(約8分)
更に徒歩で1.7km(約20分)
- 問い合わせ先/中泊町博物館 ☎0173-69-1111

8 大沢内本線軌道跡

中泊町大沢内



本線軌道跡は、中里高校東側の用水路や農道に利用され、南に続いている。津軽鉄道大沢内路線と一面に広がる田園、客車仮駅跡、そして岩木山。ヒバを満載したSLがこの地を走っていたのだ。“これぞ奥津軽の絶景”とも言える最高の風景をカメラに収めるには、跨線橋上か用水路の軌道跡がお勧め。

- 中泊町博物館より1.9km(約2分)
- 問い合わせ先/中泊町博物館 ☎0173-69-1111

9 喜良市停車場跡

五所川原市金木町喜良市



喜良市停車場は、津軽森林鉄道本線67kmの最終停車場で、喜良市川支線、小田川支線、金木貯木場の分岐点としてにぎわった。本線や各支線から運ばれるヒバが集められた金木貯木場跡に金木中学校と金木高校が建てられていることから、その広さが分かる。支線跡は現在、道路に利用されているが、今でも残っている場所がある。

- 金木三味線会館より県道2号3.5km(約7分)
- 問い合わせ先/(一社)かなぎ元気村 ☎0173-52-2882

10 小田川支線跡鉄橋・藤の滝

五所川原市金木町喜良市



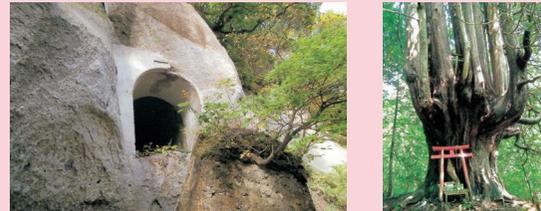
山中にある7号橋北東側には、長さ40m、高さ5.5mの小田川鉄橋が今も残る。ヒバを満載した機関車がこの鉄橋を走ったのだ。この上流には、太宰治の小説『魚服記』に登場する藤の滝がある。更に上に進むと小田川ダムに達する。ダムの水は、森林鉄道を利用した用水路を通して町に運ばれている。まさに命の水路である。

- 金木三味線会館より県道2号8.5km(約18分)で鉄橋跡。
- 問い合わせ先/(一社)かなぎ元気村 ☎0173-52-2882

11 喜良市川支線跡

相の股隧道・十二本ヤス・七ッ滝

五所川原市金木町喜良市



喜良市集落から山に入ると、相野山橋の傍らに相の股トンネルがある。ここは必見である。更に林道を進むと、幹周7.5mの神木「十二本ヤス」がある(中腹に軌道跡が現存する)。また、母沢砂防公園や七ッ滝、水力発電所跡、モリアオカエルの繁殖地等もある。自家用車で行くことができるので、家族で訪れるのに最適である。

- 金木三味線会館より県道2号8.3km(約17分)
- 問い合わせ先/(一社)かなぎ元気村 ☎0173-52-2882

12 喜良市川支線鹿の子線跡

五所川原市金木町喜良市



喜良市貯木場跡から県道2号を青森方面に進むと、約6.9kmで鹿の子滝の看板が見えてくる。太宰治は、鹿の子線を「軌道の枕木の間隔が、一步には狭く、半歩には広く、甚だ歩きにくかった」と、小説『津軽』に書いている。鹿の子線跡から冷泉・地藏尊尊があるふるさと林道を経由して小田川支線跡に行くこともできる。

- 金木三味線会館より県道2号6.9km(約11分)
- 問い合わせ先/(一社)かなぎ元気村 ☎0173-52-2882

13 山王坊支線跡

五所川原市相内



国道339号沿いにある朱色の山王鳥居をくぐって直進すると、日吉神社駐車場にたどり着く。木製の歩道を進むと左側石段の上に日吉神社が鎮座。その脇にある軌道跡は山王川に沿って北へと続く。軌道跡は現在、「安藤史跡めぐりみち・森林浴ロード」として春日内神社・津軽三十三観音等を巡る歴史散策コースとして利用されている。

- 五所川原市市浦総合支所より3.1km(約5分)
- 問い合わせ先/市浦総合支所 ☎0173-35-2111

14 小泊海岸林道 七ッ滝トンネル

中泊町小泊



小泊貯木場から傾り石まで約8kmの海岸林道は、景勝軌道として有名で、いくつかの支線も延ばしている。海岸林道に現存する玉石擁壁や橋脚、レール、枕木跡、そして七ッ滝の両側のトンネルは必見である。観光スポットとしても人気。また、明治39(1906)年、東北で初めてレールが敷かれたのが小泊林道であることも覚えておきたい。

- 中泊町小泊支所より国道339号9.6km(約11分)
- 問い合わせ先/小泊支所 ☎0173-64-2111

15 片刈石支線跡木橋

中泊町小泊

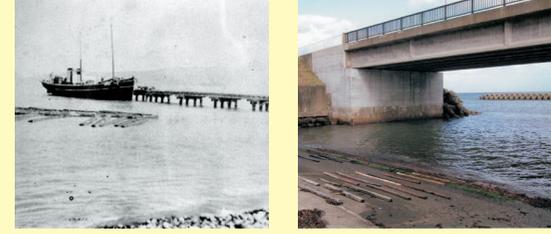


国道339号沿いの傾り石から算用師峠越えで三蔵に達する「みちのく松陰道」は、トレイルコースとして活用されている。小泊側の入口から東に約2.3kmの間には林業遺産に選定された2連木橋があるほか、2ヶ所のスイッチバックも現存しており、当時のヒバ運搬を物語る。この道は、津軽藩の藩主や伊能忠敬、吉田松陰も通った歴史の道でもあり、子ども達の学習にも活用したい。

- 中泊町小泊支所より松陰道看板まで10.7km(約15分)木橋までは徒歩で約40分。
- 問い合わせ先/小泊支所 ☎0173-64-2111

16 増川林道棧橋跡

外ヶ浜町三蔵



明治41(1908)年開設の歴史ある増川林道沿いには、増川営林署(「道の駅なみおか」敷地内に移築)や貯木場、棧橋があった。この棧橋は、運搬船「あすなろ丸」でヒバを運ぶために作られたもの。旧道「増川橋」からあすなろ大橋の袂では、当時の棧橋の面影を今も見ることができる。

- 外ヶ浜町三蔵支所より国道280号あすなろ大橋の信号を右折、更に三叉路を右折する。1.1km(約1分)
- 問い合わせ先/外ヶ浜町役場 産業観光課 ☎0174-31-1228

17 増川林道滝ノ沢支線跡

外ヶ浜町三蔵



「巨木の森」や「鋸岳入口」の看板がある増川林道滝ノ沢支線は、実験林区域である。この場所には、ヒバ育成指導者・松川恭佐(まつかわ きょうすけ)の歌碑や記念碑、ヒバの巨木「山一」、滝、ヒバの二段林、大変貴重なヒバのウズラ木等を鑑賞することができる。山歩きが好きな人にはたまらない宝の山である。

- 外ヶ浜町三蔵支所より国道280号を経て県道286号線ひば峠道8.4km(約22分)
- 問い合わせ先/外ヶ浜町役場 産業観光課 ☎0174-31-1228

18 長川林道鉄橋跡

今別町今別



北海道新幹線が通る今別高校野球場南側前方下には、森林軌道跡がある。また、西田集落の長川(ちょうかわ)林道鉄橋の下をJR津軽線が走っている。奥津軽いまべつ駅から車で20分、浜駅駅東約300mのこの場所は、今昔を体感できる鉄道マニアの隠れたスポットである。

- 今別町役場より国道280号1km(約2分)
- 問い合わせ先/今別町役場 ☎0174-35-2001